

第17回 白川・東白川地域公共交通活性化協議会会議録

1.開催日時

令和3年2月24日（水）午前9時30分から午前11時20分まで

2.開催場所

白川町町民会館1階大研修室

3.委員等数

(1) 委員の現在数

32人

(2) 出席委員 26人

所 属 等	氏 名
白川町長	横 家 敏 昭
東白川村長	今 井 俊 郎
白川町議会議長	今 井 昌 平
東白川村議会議長	樋 口 春 市
公益社団法人岐阜県バス協会事務局長	上 嶋 英 樹
濃飛乗合自動車株式会社事業管理部計画管理課長	有 路 秀 彦
岐阜県交通運輸産業労働組合協議会	山 下 光 生
大新東株式会社	佐 藤 久 仁
医療法人白水会白川病院	松 本 茂
白川町商工会長	古 田 文 英
白川町観光協会長	鈴 村 雄 二
白川町老人クラブ連合会長	細 江 照 男
白川町公共交通利用者代表	笹 本 恵 子
白川町校長会会長	瀬 瀬 眞 彦
白川町バス通学高校生保護者代表	杉 山 周 三
白川町社会福祉協議会推薦高齢者生活実態精通者	安 江 知 加 子
東白川村区会長	樋 口 新 祐
中部運輸局岐阜運輸支局首席運輸企画専門官	久 世 真
可茂土木事務所施設管理課長	堀 場 一 彦
加茂警察署交通課長	村 嶋 憲 二
岐阜県公共交通課地域交通係	栗 山 徹 子

名古屋大学大学院環境学研究科教授	加藤博和
白川町副町長	佐伯正貴
東白川村副村長	桂川憲生
白川町役場建設環境課長	藤井充宏
東白川村役場建設環境課長	有田尚樹

(3) 欠席委員 6人

所属等	氏名
東海旅客鉄道株式会社	豊田智隆
白川町自治協議会長会会長	佐藤滋
白川町中学校PTA役員	中嶋英隆
東白川村老人クラブ連合会代表	安江力男
東白川村高校生保護者会代表	安江淳
岐阜国道事務所管理第一課長	中村澄之

(4) オブザーバー参加

所属等	氏名
白川地区地域部会長	今井和秀
白川北地区地域部会長	長尾隆
黒川地区地域部会長	藤井秀男
佐見地区地域部会長	田口一成

4.会議次第

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

副会長あいさつ

(3) 報告事項

①委員の就任について

②令和2年度白川・東白川地域公共交通活性化協議会事業実施状況等について

③おでかけしらかわ・ひがししらかわの利用実績について

④おでかけしらかわサポート便の利用実績について

(4) 協議事項

①おでかけしらかわ・ひがししらかわの見直しについて（10月改正案）

②おでかけしらかわサポート便の運行について

③白川町福祉郵送運送の実施（案）について

(5) その他

(6) 閉会

5. 協議内容

(長尾弘巳 白川町役場企画課長)

定刻になりましたので第17回白川東白川地域公共交通活性化協議会開催をさせていただきますと思います。立春も通りすぎましてもう3月になろうかという時期になりました。まだまだ寒い状況が続きますが、日中は日差しも暖かいそんな感じを受けております。

緊急事態宣言の中、感染者数も徐々に減少するという状況でございますが、近隣の美濃加茂市では病院のクラスターということもありまして、岐阜県においては、現在4,585名が感染し、亡くなられた方が106名というような状況でございます。本日の会議につきましても、コロナ対策ということで学校方式の机の並びになっております。また、換気システムを使用しながら会議を進めたいと思います。会議時間もなるべく短めにということで考えておりますので、皆様のご協力をよろしく申し上げます。それでは最初に、会長の白川町長横家敏昭が挨拶を申し上げます。

(会長 横家敏昭白川町長)

改めましておはようございます。町外からの委員の皆さん方におかれましては、早朝からのご出席ということで本当にありがとうございます。

今、司会から申し上げました通りでございますが、本日の会議につきましては、新しい取り組みについてご検討いただくわけでございます。白川病院の松本さんにも新しく委員になっていただくことで後ほど紹介させていただきますが、町営バスと病院バスの統合について順次進めてまいりたいと思います。

話は変わりますが、今日午後からコロナワクチンのウェブ会議がございます。これはコロナのワクチン接種をどう進めていこうかということですが、住民の皆さんを接種の場所へどのように来ていただくか、というのが一つの課題でございます。公共交通をどう利用していこうかというようなことも我々の中で考えなければいけないという思いでございます。

それからもう一つ、ちょっと話が反れますが、一昨日私どもの町で火災が発生しました。同時に2件の火災発生ということで1件目の撤収をしないうちに次の火災が発生し、美濃加茂市の消防署から、鎮火に来ていただいたというような状況の中で、私も20何年ぶり

かにホースを伸ばして筒先で水を出したというようなそんなことをしなければいけない状態でした。これを公共交通でちょっと考えてみましたら、おでかけしらかわを担っていただいてる皆さん方というのも私と同じ年代でございまして、本当に後継者をこれから作っていかねばいけないということでございますが、その後継者が本当にできていくのだろうか、というようなことを大きな課題だと考えておるわけでございます。これは公共交通に限らない全てのことでございますけれども、そういった中でお互いどうやって助け合って生きていくかというようなことが一つの大きな課題になってくるのではないかなということ改めて一昨日の火事で痛感をしたものでございます。

(長尾弘巳 白川町役場企画課長)

ありがとうございます。続きまして当協議会の副会長であります東白川村村長、今俊郎様、お願いいたします。

(副会長 今井俊郎東白川村村長)

早朝からご苦労さまでございます。公共交通の話題は会長さんからお話しがあったことで重複は避けますけど、今行政は来年度の予算を立てており、白川町さんはもう新聞発表されました。ご存知と思いますが、東白川村も予算概要は議会に説明させていただいて3月になりますと、議会で認定を受けるということになるわけなんですけど、この予算編成において一番思ったことを少しだけお話させていただきます。公共交通にも大いに関係があることなんですけど、動向としてやはり人口減少、これは多分白川町さんも同じじゃないかなと思いますが、例の限界集落の話の中から出てきておりますが、現実的な数字になってきてボディブローの様に効いてきているなというようなことを思いながらの予算編成方針を立て、いろんな事業をもう一度チェックし、事業の見直し、施設の見直しをかけていく時期になっております。

人口減少がこの過疎地域でどのように現象を表してくるかというのがまだはっきりしていないところで例えば、良い面と悪い面を考えるとスモールメリットって言葉をよく使って話していましたが、今コロナワクチンの話が出ました。白川町さんも同じだと思いますけど、65歳以上の高齢者の方の名前を全部承知しているわけで、すぐにでも打つ準備ができそうな気はするんですけど、肝心要のワクチンがどうやって入ってくるかが全然わからないので計画を立てておいてもきっと計画通りにいかないだろう、というようなことで今思っています。これは、一つはスモールメリットだと思っていたら、今日の新聞を見ると、人口配分をするようになると小さいと切り捨てられるじゃないかっていう、もう心配も出てきたというようなことでお互いに感染防止については非常に皆さん協力いただいてそんなに大きな事案にはなっていないので両町村もありがたいんですけども、ワクチンについては、やったことのない事業をやらなきゃいけないということで、地域の皆さんにも十分説明をし、協力をいただきながらやっていきたいと思っていることです。予算をやっております。

ましたらこの公共交通に関して申し上げますと高校生の数はやっぱり減ってきております。東白川村はバス通学する人に対しては、助成をしているわけなんですけど、その金額が思ったより少なくてなってしまうと。乗っていないわけではなくて絶対数が減っているというようなことなんです。かといってこれを切り捨てていくという話では全然ないわけなんですけど、傾向として言えることかなということを考えています。

あと連携という話で思うんですけど、診療所の運営会議をやったんですけど、黒川地区から100名の方がかかりつけ医になっていただいたというような報告があり、どれだけの人数が乗っているのかは今日その実績が出てくるのではないかなと思っております。

いずれにしても黒川地区と非常に近くなったことで、これから公共交通の面で連携していく必要があろうかなという動きがあります。

一方で高校生の通学を見ると、美濃加茂方面ばかりではなく恵那市や中津川市あるいは下呂市の萩原へ通学する子が増えてきて、中には高山まで通っている子もいるわけなんですけど、そういう状況で白川東白川線を使う人が減ってきている部分は確かにあるなという傾向が見てとれております。そんな課題を抱えながらこの公共交通会議はしっかりと運営をさせていただきたいと思います。どうかよろしくお願いします。

(長尾弘巳 白川町役場企画課長)

ありがとうございます。続きまして、名古屋大学大学院教授加藤博和様、よろしくお願いいたします。

(副会長 加藤博和名古屋大学大学院教授)

おはようございます。

名古屋大学の加藤です。このところ三重県とか静岡県の会議がありましたが全部 Web、オンラインで参加ということで、緊急事態宣言のところからは来て欲しくないということでまあ、仕方ないかなと思うんですけど、今日は来ることができて良かったと思います。愛知県の会議ですと3面をアクリル板で完全に囲ってやっているようなところもありますが、気をつければ何かできるのではないかなとも思います。

昨日のニュースでご覧になったかもしれませんが、静岡県でトヨタ自動車が新しい未来型都市の取り組みをしていて着工式が行われたというのが出ていました。若干関わりがあるんですけど自動運転であるとか、AI使ったインフラだとかいろんなサービスについて操作したりとか、それから住民の皆さんのニーズや移動状況だとかを踏まえていろんな取り組みをしようということですが、それって逆に言うとプライバシーがあんまりないんじゃないかという気もしました。そんな実験都市を作ろうとしているということですが、まさに白川東白川も実験というか、未来に向かってどうしていくかということをやらなきゃいけないんだなと思っています。何しろ人がどんどん少なくなるので、それに対する対策も必要だし、少なくなった人たちでどうやっていろんなことを維持していくかということの知恵

とか工夫とか新しい技術の導入も必要になってくるということになります。なので、私自身もそのいろんなところでいろんなことに関わる中でどうやって少ない人でたくさんのごことをやる、つまり効率化をするかということ、試しているっていうか、取り組んでいます。白川東白川もそれがとても必要なところだし、だけどそのためにいろいろやらなきゃいけないことがあるので、この会議もまだまだ懸案がありますけれど、今日はその意味で白川病院さんに来ていただいて、病院バスとどのように一緒にしていくかという、懸案でしたがここについて議論を始めるということもありますので、これから本当に少ない人たちでどうやって支えるか、それからそもそも人を減らさないように、基本的なサービスはちゃんと維持していくことをやるためにこの会議があるということを改めて認識しながら進められたらいいなと思っています。

よろしく願いいたします。

(長尾弘巳 白川町役場企画課長)

本日の会議ですが、資料に名簿をつけてございます。

6名欠席の方でございますので、この名簿でご確認をいただければと思います。

前回の会議は昨年9月4日ということですがかなり時間が空いておりますが、本日の協議事項は先ほど言われましたように白川病院バスとの連携といったようなこともございます。

それでは協議の方に入ります。

議事進行につきましては、白川町の副町長が行いますのでよろしく願いいたします。

(座長 佐伯正貴 白川町副町長)

副町長の佐伯です。よろしく願いいたします。今お話ございましたようにコロナ禍でありますので、スムーズな議事進行にご協力下さい。

それでは報告事項の1点目、委員の就任について事務局から説明をお願いします。

(鈴木幸祐 白川町企画課企画係長)

皆さんおはようございます。白川町の事務局の鈴木です。お配りの資料の2ページをご覧ください。今回から2名の方に新任の委員ということでご出席をいただいております。まず名簿の3番ということで、白川町議会議長の今井昌平様、昨年9月の議長職の交替代により、今回から委員としてご出席をいただいております。

続きまして、10番の医療法人白水会白川病院の松本茂様、先ほど以来、ご挨拶の中でお話ありましたように町営バスと病院バスの連携、統合といったところで今回からご就任をいただいております。よろしく願いいたします。以上です。

(座長 佐伯正貴 白川町副町長)

今2名の新任の委員について説明がございました。それぞれ新任の委員の方から一言ずつ

挨拶をお願いします。

(今井昌平 白川町議会議長)

白川町議会議長の今井昌平と申します。先ほどもお話がありましたが人口が減少する中で、公共交通は大変重要な仕事だと思っておりますので、議会としても一生懸命やりたいと思っております。どうぞよろしくお願いします。

(座長 佐伯正貴 白川町副町長)

ありがとうございました。続きまして白川病院の松本様、よろしくお願いいたします。

(松本茂 医療法人白水会白川病院)

ご紹介いただきました白川病院の松本と申します。よろしくお願いします。病院としてお声掛けいただきありがとうございます。こんなことをやりたいという話は前々から結構考えていて、いろんな案は持っているんですけど、どこに出していいのかというところがありました。少しでも住民の方々の利便性を上げるために関与できたらなと思って参加させていただきました。この場をお借りして一言お願いですけど、新型コロナウイルスのワクチン接種の方もやっています、そちらの方でかなり多くの人の動きというのをやらなくてはならないというところが出てきます。スケジュールはまだ全然出ていない状態ですけど、公共の交通機関というところのご協力をしていただきたいということで、そのお願いについてもこの場をお借りしてよろしくお願いします。

(座長 佐伯正貴 白川町副町長)

ありがとうございました。よろしくお願いします。

次に、報告事項の残りが3つございますが、令和2年度白川東白川地域公共交通活性化協議会事業実施状況等について、おでかけしらかわひがししらかわの利用実績について、おでかけしらかわサポート便の利用実績について、以上3点は実施状況利用実績等の報告でございますので、一括して事務局からの報告を求めます。

(鈴木幸祐 企画課企画係長)

資料3ページをご覧ください。

今年度の協議会の状況報告ということで、2月時点での報告をさせていただきます。

まず、会議の開催ということで、当協議会につきましては、本日を含め3回の開催をさせていただきました。内容等は資料にご紹介した通りですが7月の協議会では主に新型コロナウイルスの感染予防対策と公共交通の崩壊を食い止めるための緊急アピールの決議についてご協議をいただいたところです。9月の協議会では、白川町で行っております町営自家用有償事業の更新について中心にご協議をいただきました。次に資料4ページをお願いし

ます。第 17 回ということで本日の会議を開催しております。

続きまして、地域部会の開催ということで資料 5、6 ページですが、白川町の 5 つ地域部会という形でそれぞれご活動をいただいております。活動状況を紹介しておりますので、ご確認をいただければと思います。

地域の足の確保ということで、1 番目の路線バスに関しましては、濃飛バスさんに白川東白川線及び白川中央線の 2 路線の運行をしていただいております。

2 番、3 番でそれぞれ町営自家用有償運送の代替バスの運行ということで運行をしております。3 の 1、分散登校に対する臨時便の運行につきましては、これも新型コロナの関係で 5 月から 6 月にかけて、高校が分散登校になったということで臨時便の運行をさせていただきました。

3 番では白川東白川道の駅のレシートラリーということでコロナ禍ではありましたが 101 人の方からご応募をいただいております。なお、令和 3 年度につきましても 5 月から行いたいということで計画をしております。

おでかけしらかわバス待合所の設置ということで、5 ページの一番下のところに少し写真で紹介をさせていただきます。

三川のマツオカ白川店の辺りにですね、バス待合所の設置ということでこのような形で設置をさせていただきました。白川中央線とそれぞれの各地区の予約制バスの乗り継ぎといったことでこれからも積極的な活用がされればと思っていますところです。

最後に 1 月の下旬に行われました県知事選挙におきまして、26 人の方が投おでかけしらかわを使って投票いただいたということで運賃については無料で、26 人の方が投票の方を行っていただきました。5 ページ 6 ページは、先ほどご紹介しました白川町の地域部会における活動についてご確認いただければと思います。3 月に入りましたら新たに高校に進学される保護者の方への説明会を開催したいと思っておりますので、地域部会の皆様どうぞよろしく願いいたします。

6 ページの一番下のところに写真でご紹介させていただきました。

これは、佐見地区の高校生から心温まるお手紙をいただきましたので、この場でご紹介をさせていただきます。

(高木大輔 白川町企画課企画係主査)

それでは、(3) おでかけしらかわ・ひがししらかわの利用実績について、(4) おでかけしらかわサポート便の利用実績について私白川町の事務局の高木から説明をさせていただきます。資料は別冊 1 の利用実績をご覧ください。

1 ページは上半分が 2019 年の 10 月から今年の 2020 年 6 月までの 1 年間の濃飛バス、JR 接続便、予約制バスの月ごとの利用の状況、下半分が昨年 10 月から先月 1 月までの表とグラフとなっております。上の表の 8 月までにつきましては、前回 9 月の協議会で状況について報告させていただいておりますので 9 月以降の状況について簡単に説明させていただきます。

きます。9月以降も減少傾向というのは続いておりまして、下の表の一番右の下をご覧ください
だきますと、合計では17%ほど減少、前年に比べて減少している状況です。

資料めくっていただきまして、2ページ3ページは、JR 接続便の各地区の利用の状況載
せております。

3ページのグラフが3つ載っておりますが一番上のものが、2018年度の10月から、真ん中
より下が2年目から3年目ということでそれぞれ載せております。グラフの見方ですけれ
ども、真ん中のグラフの10月、左側の10月のところをご覧くださいと、色のついた
棒グラフに濃い色で縁取りがしてございますけれども、その縁取りのところと同じ10月の
前年の数値と値となっております。

ピンクの蘇原地区ですけれども見ていただきますと、縁取りより色のついた部分の縦の棒
が飛び出ている部分が前年より増えている部分。その隣の青いグラフ見ていただきますと
上の方が白いところがありますけれども逆にこちらが減少している部分ということになっ
ております。昨年の10月以降、一番下のグラフになりますけれどもご覧くださいと、蘇
原地区、白川北地区では若干ですけれども利用者の方が増えておりまして、青とオレンジ色、
黒川と佐見については利用人数としては減少しているという状況となっております。

6ページの方に高校生の3年間の人数の推移というのを載せております。地区別で3年ごと、
それぞれ生徒の数と通学者数とありますけれども、こちらは下宿等ではなくて自宅から通学
をしている人数ということで拾っております。

こちらは JR の定期券高校生の定期券の代金というのは白川町が補助しておりましてその
補助を受けている子供の数ということで載せております。

またバス利用者数は実際には誰がどれだけ乗っているかという情報は正確につかめていな
い状態ですので、平日の行きと帰りの人数というのが1年間通してほしい同じ人数にな
っておりますので、その平均を行きも帰りも定期的に利用している実人数に近い数値とい
うことでこちら載せております。

資料の方へ戻っていただきまして、4ページと5ページをお願いいたします。

4ページ5ページが予約制バスの地区別の利用状況ということで載せております。グラフの
方見ていただきますと、青い縦のグラフが黒川地区ということで他の地区と比較しても利
用ニーズが多いという状況となっております。ただ、黒川地区を見ていただきますと地区
の特徴としまして地区の運行の中で、保育園の通園というのも利用いただいておりますの
で、その利用者数というのも入っております。2020年の6月までは保育園の通園でバスの
利用というのを控えていた期間がありましたので、その分減っているという状況になっ
ております。また、一番下のグラフの黒川地区以外のところでは、蘇原、白川北、白川とい
うのはそれほど大きく減ったり増えたりというのはいんですけれども、佐見地区に関し
ましては、10月以降1月まで最近の利用者数というのが116人増えておりまして前年と比
較すると25%ほど増えている状況となっております。

次に別冊の2のサポート便の利用実績という資料をご覧ください。

このサポート便というのは予約制バス等の運行がない時間帯、時間でいきますと夕方 3 時から 5 時の間と休日は朝から夕方まで運行しているものになります。1 ページの利用者数の方ですけれども、一番上の全体の合計では昨年 4 月からの利用で 511 人の方に利用をいただいております。こちら 1 日あたりにしますと特に土曜日、日曜日のところが、利用人数が多く、土曜日が 6.2 人、日曜日と祝日では 4.2 人となっております。

円グラフを見ていただきますと、曜日別でこのような割合となっております、さらに真ん中の円グラフでは土曜日の利用の目的というものが、病院と買い物というのがだいたい半々ぐらい、日・祝についてはもちろん病院の方は少なくなりまして買い物の方が圧倒的に多いという状況となっております。

2 ページ、3 ページの方は先ほどの利用人数をですね、全体と平日、土曜日、日・祝ということで分けたグラフとなっております。次に 4 ページから 6 ページまでになりますが、こちらが白川町内の地区別の利用の状況ということで載せております。

利用人数が多い地区としましては白川地区と蘇原地区となっております、白川地区の特徴としては病院の利用というのが最も多くなっています。曜日についても、土曜日の利用というのが多いという状況です。蘇原地区については逆に買い物利用というのがほとんどでありまして、曜日についても、日曜日、祝・日の利用が圧倒的に多い状況となっております。黒川地区、佐見地区につきましては、休日もそれぞれ各地区の方で運行をいただいておりますので、サポート便の利用は少ない状況となっております。

最後 6 ページ、町外の方の利用というのもございまして、ほとんどがその他という黄色い部分となっておりますけれども、その他の理由としましてはほとんどが JR でお見えになって白川口駅から実家との行き来利用されているという内容となっております。

最大 600 円で白川町内、基本どこでも行けるという大変便利な乗り物となっておりますけれども、特定の方が何回も利用するという状態にはなっていないということでお聞きしております。利用実績については以上とさせていただきます。

(座長 佐伯正貴 白川町副町長)

はい、ありがとうございました。

それぞれのシステムごとの実績等、今報告をいただきました。特に減っている部分では冒頭お話にもございましたように絶対数が減っていることと、特に新型コロナの影響がありましたので去年の今頃から減ってきているという状況であったかと思えます。何かご質問等ございましたらお受けいたしますがよろしいでしょうか。

加藤先生お願いします。

(副会長 加藤博和名古屋大学大学院教授)

一点だけですけど別冊 1 の最後の高校生の推移ですね。

白川町だけですがこの通学者数の定義がこの令和 2 年度だと 67%。これは自宅通学者でい

いわけですかね。そう考えるとたぶん僕が今まで見てきた中で最低に低いぐらいの値になっています。いろんな自治体を見たときに、3分の1の高校生が下宿しているっていうのは、他では見たことないぐらい低いと思います。いろんな理由があるわけですけど、おでかけ白川・東白川を利用することで高山線方面は、ある程度いけるんですけども、それでも行き先の駅からまた時間かかったりすることもありそれだったらもう下宿して、違うところへ行った方がいいとか、送迎とかを使うとそういったことになっているのかもしれないです。まず皆さんに知っておいて欲しいのはこの3分の1ぐらいと言うのはとても低い数字であるという現実をご理解いただきたいと思います。

それから、その中で125人が通学者で、24%がバスを使っているということですがこれは決して低いとは思わないんですけど高いわけでは全然ないということですね。

ここについても、まだ伸ばせる可能性があるのかなと思います。だから、なるべく自宅から通っていただけにするにはどうしたらいいかということと、通うときに、毎日とは言わないけれど、公共交通があるということを確認して使っていただくことを呼びかけてやっていただけるといいなという、この2点はまだやれることがあるのかなと思いますので是非この協議会の大きな目標として考えていただければと思います。

(座長 佐伯正貴 白川町副町長)

ありがとうございます。今先生からご指摘頂いたところも課題だと思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。

次に協議事項に入ってまいります、まず1点目、おでかけしらかわ・ひがししらかわの見直しについてということで10月に向けた改正案の関係についての説明を事務局の方からお願ひいたします。

(鈴木幸祐 白川町企画課企画係長)

今の加藤先生からご指摘を頂いた高校生の状況ですが、3月に入りましたら高校生の保護者を対象に説明会を開く予定にしております。また、下宿者が実際どれぐらいいるのか、公共交通利用の周知と合わせてアンケート等で状況を把握する予定にしておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、資料7ページの資料2をご覧いただきたいと思います。

病院バスとの連携および白川中央線の見直しについてということで、7ページから9ページまでの資料とあわせまして別紙も資料をお配りしております。

まず、事務局から概要の説明をさせていただきます、その後白川病院バス運行の現状についてということで白川病院の松本さんの方から、資料の8ページ9ページで説明をいただきたいと思います。

その後、別紙で資料をお配りしていますが、加藤先生からの説明といった流れで進めさせていただきますのでよろしくお願ひします。

まず、7ページに白川東白川地域公共交通網形成計画の記載ということで、少し紹介をしております。基本方針に地域で公共交通システムを守ります、という部分の中に施策4ということで、地域内モビリティの有効活用、事業者間の連携という項目を挙げてございます。これにつきましては、この後お話いただきます病院バスや社会福祉法人等の福祉車両、スクールバスなど地域内の各事業者が連携して地域内のモビリティを有効活用します、といった部分で計画に記載をさせていただいています。

その下に表をつけておりますが、3点ほど項目を挙げておまして一番下をご覧いただきますと、病院バスとの連携といったところで、5年間の計画の中で、取り組みをしていく形で予定を挙げております。本日、病院から現状の報告をいただきますが、計画の中ではこういった位置づけがされているということでご承知をいただいた上で、ご協議をいただければと思いますのでよろしくお願いします。

(松本茂 医療法人白水会白川病院)

それでは白川病院から現状のバスの運行の状況について、ということで話させていただきます。よろしくお願いします。

まず資料の8ページ9ページにまとめました現状の白川病院では、今後こういうことやっていますよっていうところを簡単に話したいと思います。

一つ目としましては、白川病院の通院用の路線を今これだけの路線を用意して走らせております。月曜日から土曜日で走っているときと走っていないときとあるのは、白川病院の診察の先生の状況もありまして、二重丸がついているところが運行をしているところです。

二つ目、病院バス路線便、個別送迎の取り組み内容ということで1番のバスとは別にこういう細かなところまでやっています、というところで12点挙げております。

一つ目が黒川小坂地区に巡回した後、病院への直行便を運転しているという点とあと、2番目は冬場は大型のバスがいけないところを個別の送迎をしています。

3番目が、各路線の日にて個別の送迎依頼がある場合はルートから外れて迎えに行くというようなこともしております。

4番目は、病院バスの通りまで出られない方がありましてそういう方も個別送迎をしております。

5、6番目は、体が不自由でバスに乗れない方は個別送迎、あと坂の東地区の方は個別送迎の連絡があればそれに対応するということです。

7、8番目は、行きの路線バスに乗り遅れたっていう人は問い合わせがあった場合そこへ行ってここで送迎する、また薬を待っている方でちょっと長くなるような方ってというのはバスの方を待たせてしまいますので、その方は個別に送迎するというのもしております。

9番目は、路線便の帰りの回送バスで患者さんを迎えに行くことがあります。また、帰りのバスで依頼があれば患者をのせていくということもあります。そういうのも個別送迎という形でやっております。

10 番目は、病院内の部署や白川町の機関より個別送迎の相談があった場合は対応します。

11 番目は、個別送迎の履歴のある人で次回の予約があって送迎依頼がない場合には、こちらから連絡して送迎の有無を確認して必要であれば行くこともやっております。

最後に 12 番目ですが、個別送迎の依頼の方を路線便で乗れるように予約を調整して迎えルートを調整していきます、という細かなところですけどこういうことも路線バスとは別でやっております。当院では今保有の車両としてこれだけ持っております。全部で 6 台、バスの運転手は 4 人ということで実施しております。

最後に、町営バスに白川病院バスを統合するとどんなメリットがあるのかなというところを考えております。

一つ目としまして、病院への直通便ができることで利用者の乗り換えがなく病院に来れる。二つ目として、濃飛バスと病院バスが同時刻に同じところを走っているようなところがありまして、そういうところが統合することで利用者の増加にもなりますし、利用者にわかりやすい公共交通が提供できるようになると思います。

三つ目として、病院バスの利用者が、町営バス、濃飛バスを利用することで乗車率の増加が見込めます。

四つ目として、今までは病院の利用者は、病院と自宅の往復だけでした。統合することで病院と買い物、病院と役場、銀行など複数の目的地に寄るといったような利便性が良くなっていきます。一人暮らしの方とか病院ついでに買い物をする方って結構多いと思われまので、その辺がかなり大きなメリットというふうに考えております。

五つ目として、病院の薬と町営バスの予約の組み合わせにより、事前に乗車見込みが結構立てられるのかなというところでは。

最後に六つ目として、デイケアの車両の統合によって足の不自由な方へのサービスの提供が可能になるということです。

白川病院バスの運行という形で今こんな形でやっております。以上です。

(鈴木幸祐 白川町企画課企画係長)

ありがとうございました。

白川病院バスの現状の運行ということで、松本様からお話しをいただいたところです。

先ほどの 7 ページに戻っていただきまして 3 番目に統合のスケジュールの進め方について現時点での予定ということでご覧いただければと思います。

病院バスとの統合・連携につきましては、本協議会の中で状況報告、協議をしながら段階的に進めることを予定しております。

第一段階が今年の 10 月、第二段階及び第三段階については来年の 4 月または 10 月ということで、少し内容についても触れております。

統合の進め方につきましては、この後加藤先生からご説明をいただきます。

加藤先生よろしく申し上げます。

(副会長 加藤博和名古屋大学大学院教授)

この資料は、今日の未明に作成しました。

もうちょっと早く作ればよかったです。そうなので誰も見てなくて事務局も含めて今初めて見てびっくりするかもしれません。どういうことを考えているか、ということを手簡単に説明しておきます。めくって2ページのところ、基本的な方針とあります。

白川病院バスのカラフルな時刻表で見ていただくと非常にきめ細かいというか、いろんな運行をしているなっていうことが見てとれます。

もし統合するのであったら、まず大事なのは、ここにも書いてある白川病院9時台着と12時から13時台発、つまり、現在の通院バスが主にカバーしているところを基本的に全部できるようにするということが必要となります。

さらに基本的には自宅周辺から病院まで直通可能というように今の病院バスに近い形にしていく必要もありますので、これについては後で詳しく検証します。まずダイヤを見ると、実はこの9時台とか12時から13時台にこだわらず、今のおでかけ白川東白川の場合ですと、地区ごとに予約制バスがあるので、近くの停留所まで出ていただきそこからバスに乗り換えるっていうことをしてもらおうと白川病院は今でも行って帰ることはできます。

行きに関しては、7時台の次は9時台になって、9時台になると病院に着くのが10時近くになってしまうということで、行きはどうしても増便しないといけないこととなります。これは通学を重視しているからっていうのもありました。

そのときに、家から路線バスまでの間というのは、白川町内ですと、どこの地区でも8時半から13時半まで、又は15時半までは、予約制バスがあるのでどんな時間でもその地区内は動けるので、停留所の時間に合わせてバスに乗ってもらえれば、白川病院にも行けるようになっています。ただし、9時ぐらいに病院につこうとすると、8時台の白川病院方面がこれ東白川からもマツオカからもないので、これを増便しないといけなくなります。

更に今の予約制バスが8時半から始まるのが一般的なので、8時にしていけないといけないうだろうというふうに考えています。8時にすることができれば、8時台の前半とか半ばぐらいから近くの停留所まで行き、予約制バスから路線バスに乗ると白川病院まで行くことができるようになります。もちろん停留所に近いところの方はそのまま停留所から乗っていただけるとなります。

それから予約制バスは平日運行がほとんどですが、白川病院は土曜日でもバスが走っていて、利用が多いところになっています。眼科等の診察があるので、土曜日の運行も必要になってくると考えています。今のままだと、どうしても乗り継ぎしないといけないのが蘇原地区です。黒川の場合は、停留所からは白川病院までいけるんですけど、停留所に出るのはハッピーで出ないといけなくなります。ただ、蘇原の場合もマツオカまでは家の近くから乗れるので、マツオカまで出ることができれば白川病院まで行けることとなります。

それから東白川の場合は、予約制バスがないので停留所まで来ていただいたら、白川病院

まで直通できるんですけど、交通機関は今のところおでかけ白川・東白川で用意していないのでその部分をどうするかという議論が必要です。

あと、この予約制バスを予約して白川病院に行くってことであれば、病院の診療薬との時間と合わせて、予約が入るようにするようなシステムを入れる必要があると思います。

つまり、病院の診療時刻が分かるとこの時間に予約制バスがここへ行かなきゃいけないっていうふうにコミュニティバスセンターの予約と病院の診察予約をオンラインで結んで連携するとかそういったものが必要になってくるのかなと思います。

それから乗り継ぎについては、ある程度元気な形ならしていただければと思うんですが、自分で歩くのが大変という方については、サポート便を担保するということが可能になると思います。実はサポート便は普通にバスに乗って行くのと値段があまり変わらないので一度便利だと思うとそればかり乗ってしまい、結果的には費用が膨らむことになるので、サポート便はなるべく乗り換え等ができない方に利用していただくような仕組みとして運賃は高くしていく必要があるだろうなと思っていますし、逆にそういう体がなかなか動かない方においては安くする、という仕組みや資料の一番下に書いてある白川病院に行かれる方について病院さんのご負担で1日乗車券を出してそれで利用者にとっては無料とする。それから白川病院さんは今まで病院バスの運行に直接経費を出しておられたんですが、運賃により経費を出していただくという形に変更すると、この資料に書いてあるように帰りにどこかに買い物や銀行に行ったりして帰る、あるいはどこかのお友達の所へ行ってから帰るといふ、そういうのは自由にできます。最終のJR接続便の20時台まで帰ることが出来るようになりますよ、ということです。

あと、デイケアの話が出ましたが、あのサポート便の中にそういう障害のある方に乗っていただけるようになると考えています。

あと3ページ4ページが、具体の話になりますが、まず今のことを実現しようとした場合に何が必要かということを書き出すと、白川東白川線については7時8分のJRに接続する便の次は9時台になっているということで、これは白川病院に着くのが10時ぐらいになってしまうので、東白川8時台については、現状白川口駅止まりですが、この便は白川病院まで行くようにすることが絶対的に必要となります。それと逆に白川口から帰るのは13時ぐらいの便があります。これが、9時台に白川病院に来て12時台から13時に帰ることが毎日できるならということになります。

それから11時台ぐらいも必要じゃないかと考えていて、今は白川口駅からの東白川方面は9時台の次は13時台になっています。ですので、11時台ぐらいも必要じゃないかと考えていまして、これについては10時台にマツオカまで行ってるんですけど、それをマツオカではなく、東白川方面に行くということが考えられると思っています。

それから白川中央線ですけど、これを黒川に一部運行することを考えていて、全部行くのか一部行くのかというのは考えられるんですけど、最低限必要なものとしては今マツオカ8時台に出る便がありますが、これがさきほどの東白川と同じで9時台に白川病院に行け

る便でこれが黒川から出てくるというふうにすると、黒川の多くの地区から直通で白川病院に行けることとなります。

それから逆の白川病院からの帰りですが、今だと 11 時 43 分の次は 13 時台になると、いうことで 11 時 43 分をもう少し遅くして 12 時 20 分とか 30 分に変更しさらにマツオカどまりではなく、黒川便にするということが必要になります。そうすることで、黒川からも行って帰れるとなります。蘇原はさきほど言ったように、この便はないわけですけど、マツオカで蘇原のバスが待ち構えていて乗り換えれば白川病院まで直通できるというように蘇原号については定期便にするということも考えられるかなと思っています。

今のことをやろうとすると、どうしても今の便は維持できません。それについては、病院バスが一緒になるのでその分を 1 台増やすのか。あるいはもうすでにその便はあまりいらぬかもしれないのでやめるとかっていうことは精査する必要があると思っています。

それから最後の 4 ページですけど、白川町内を見た場合、5 台のバスがそれぞれの地区内で走ってさらに地区外にも出る場合があるということですが、まず白川地区のバスについては、8 時から 15 時台まではこの地区内は自由に動くことができ、さらに白川病院までもお金を余分に払うといけるとなっているのです、白川地区は今でもこの便を使えば、白川病院まで 600 円で行けます。あと今、白川病院バスの便に和泉とか天神とか、白川口の駅周辺から来て戻る便がありますけれど、この利用が多いのであれば、これについて定期便を別途用意するということになると思います。

それから白川北のニコバス。白川北地区は白川病院はエリア内なので、今でも 400 円、往復 400 円で、8 時半から 13 時まで来て帰ることができます。

これが 15 時半であるべきかどうかというのは、ちょっと考える必要がありますが、今のところは病院から帰るのは 13 時台なので、13 時半までだったらカバーできるかなと考えています。佐見については下油井まで出ると、これが金山へ行くように午前中はなっているということでこれそのまま白川病院に行くことができないのと、あと 8 時台がない状態です。ですので、実は佐見からの 8 時台の便を新しく作らなきゃいけないとなります。

それから逆に 12 時台は、12 時 28 分に金山から来て 13 時ごろに下油井へ行って、佐見へ戻る便があるんですけど、金山から来るのでこれも白川病院から行く便がこの時間帯に必要とだと考えています。これらは 600 円で往復できるっていうこととなります。

それから黒川は先ほど言ったように、8 時半からを 8 時からに変更することで、8 時台に白川病院に行く便が新設されれば、黒川のどこからでも白川病院は行って帰ることができ、それから停留所からだと直接行くことができるということになります。

黒川の中でどういうふうに延長するバスが走るかってのはこれから議論するところなので、車両の大きさとかによってそこはまだ議論が必要で、このときに病院バスの走り方も参考にする必要があると思います。

蘇原については、現状では全てマツオカ乗換えっていうことにしていますが、マツオカまでは蘇原のどこからでも予約便で出てくれるので、そういう意味では十分利便性があるの

かなと思います。

こういった見直しをすると確実に今の白川病院バスと濃飛バスの白川東白川の使ってるバスの台数も少なくできて、それぞれの便の利用者が多くなって、それから白川病院に行かれる方についても 1 日乗車券が付与されれば、いろんなどころへ行けて便利になるんじゃないかなというふうに考えています。この辺りをとりあえず 10 月に向けて、今ほぼ毎日走っている病院バスの東白川線と黒川線をまず路線バスに統合する。その代わりさっき言ったように路線バスの増便が必要になります。それをやってさらに細かいところの調整をやって、来年の 10 月ぐらいまでには統合できるといいかなというふうに考えています。統合の仕方については、車両はどうするのかとか、運転手さんをどうするのか、とこれは私が勝手に結論を出すことは出来ないと考えます。とりあえず運行としてはこういう見直しが必要だということを申し上げました。

以上です。

(座長 佐伯正貴 白川町副町長)

ありがとうございました。今それぞれの立場でのご説明をいただきました。

10 月に向けてということで現状で考えられる内容と課題事項、そういったものの説明をいただきましたけれども、今の時点で何か聞いておきたいこと、それから課題事項で他に何か考えるようなもの等がそれぞれの立場でありましたらご意見いただきたいですが、いかがでしょうか。

(濃飛乗合自動車株式会社 有路事業管理部計画管理課長)

いつも大変お世話になっております。濃飛バスでございます。まずはこの病院の話からは外れてしまうんですけども、コロナ対策に関しまして多大なるご支援いただきまして誠にありがとうございます。

当社の状況、今どういう状況かと言いますと当社の高校生や病院に通われる方を乗せて走っている地域路線っていうのが元々から赤字路線ばかりでして、そこを高速バス等の観光路線と貸し切りバスで収入をまかなっていた状況でございます。

ところが 1 月ですけども、地域路線の方は昨年比でマイナス 20%ぐらいで来ているんですが、高速バスが 85%マイナスです。新穂高、白川郷の観光路線に至っては 95%マイナスという状況、貸切バスに至っては 99%マイナスということで大変危機的な状況にあるということでそういった中でご支援いただいたということで大変ありがたく感じている次第でございます。

白川病院についてのお話にも繋がってくるんですが、美濃白川営業所につきまして、そもそも人員不足で、続けることが困難ということ、2 年後を目途にというお話を 3 年ほど前にさせていただいたところであります。

こちらにつきまして、まず運転手の方ですが、何とか正社員を 1 名採用することができま

して、今正社員 3 名体制とすることができました。

ところが運行管理者についてですが、正社員が 1 名、もう 1 人が 15 日勤務の雇用延長のものが 1 名で、これが今年の 3 月 15 日で完全に退職という形になっておりまして、その後をどうするかということで運輸支局様にもご相談をさせていただいていたんですが、こちらにつきましては、2 月 16 日より運行管理者 1 名体制とさせていただいております。

法律上は下呂営業所美濃白川出張所のような形とし、法律上の扱いを変えさせていただきまして IT によるスマートフォンの動画で点呼するという、及びアルコールチェックその他をすることと、あと車両 GPS で管理してなおかつ IP 無線で常に指示連絡ができるということで日中の時間帯、7 時から 16 時は今まで通り美濃白川営業所の方に運行管理者が詰めているのですが、それ以外については電話をかけていただきますと、下呂営業所に繋がって、下呂営業所の者が対応させていただくという形をとっております。

ですので、特に大きくご不便をおかけすることはない状況です。何かあるとすれば夕方 6 時とかにちょっと定期券を買いに行こうと思っていたらちょっと早めに来ていただく必要があるかなという程度のものですが、この体制を取ることで当面、営業所を完全に閉鎖して撤退というお話をさせていただきましたが、そちらのご心配はしばらくの間はないということになりました。

また、運行管理者のうちの 1 人が 15 日勤務でいない日については運転手の 1 名が運行管理をして、残り運転者 2 人のもので走れるダイヤを設定するという、今の東白川線と白川中央線につきましては同時に動かせるのは 2 台までという縛りがございました。

ところが今回から 3 人で動かせることになりますので、日中時間帯に少し時間がかぶっても 3 台のバスを動かせることができるようになりました。ですので、路線バスの変更にあたりまして、バスの運用を今まで全て優先させておりましたが、お客様の動きですとか、利用者の方から便利なバスのダイヤの設定が多少できるようになったのではないかと考えております。以上でございます。

(座長 佐伯正貴 白川町副町長)

ありがとうございます。大新東の佐藤さんいかがでしょうか。

(大新東株式会社 佐藤久仁)

バスセンターの佐藤です。病院までの便で 8 時台から運行しないとちょっと間に合わないかなというところがあったんですけど、現状うちの体制のところでは小学校の登校を終わらせる時間帯がちょうど 8 時になっております。それからすぐに動き始めても 8 時 15 分ぐらいが限界かなと思っています。現状、全地区において 9 時の JR 高山線に接続する時間になっていますので、そのまま延長していけば、9 時 20 分ぐらいには白川病院に到着できるかなと思っています。

黒川地区の朝 8 時台の便については、今前回の会議の中で白川口駅まで延長になりまして

マツオカから直行で向かうので8時50分ぐらいに白川口駅に着いています。
そのまま白川病院まで足を伸ばせば9時ぐらいに到着できるような運行になると思います。
ただ、赤河に大賀医院という病院もありまして、その病院に行かれる方もやはり蘇原号を使ってもらっていますので、白川病院だけでなく、他の医療機関についても一緒に考えていけると嬉しいかなと思います。あとサポート便で土曜日の病院利用が白川の方からあったと思うんですけども、黒川の歯医者さんに利用がされています。病院に行かれる方はコロナになってから若干減っていますが、利用したい方は多く見えますので、便利になるのは地域のためになると思っています。以上です。

(座長 佐伯正貴 白川町副町長)

ありがとうございます。

先ほどお話ありましたように、まだ現時点で全てが固まっているわけではございませんけれども、10月に向けて議論を進める形でよろしいでしょうか。

では、次に2点目でございますけれどもおでかけしらかわサポート便の運行について事務局からお願いします。

(高木大輔 白川町企画課企画係主査)

それでは資料の10ページと11ページをお願いいたします。

10ページからサポート便の運行についてということになっております。今回、協議をお願いしたい部分が3番目の運行期間のところと、5番目の便の名称の変更ということになります。

運行期間は前回の協議会で今年3月末までの延長をお認めいただいたところではありますけれども、先ほどの病院バスの統合であったり、濃飛バスの見直し、また、そもそも運賃というものが、暫定的なものとしていますので、こうした部分の運行のあり方とあわせて見直しをさせていただきたいと思っています。今年の9月末までの延長という形をお願いをしたいと思っています。4番目の運行の位置付けについては現在と変わりありません。町営自家用有償の運送の一部として運行するということでもあります。ただ、位置付けについて後ほど他の運行とどういった違いがあるのかというのをまとめたものがありますのでそちらで説明させていただきます。

また5番目の便の名称の変更ですけども、こちらサポート便という呼び方をしておりますが、フレックス便という名前に変更するという案を出しております。

この日の意味合いを表す言葉としてフレックス、フレキシブルということで柔軟なという意味合いで変更したいと考えております。

12ページに、現在のおでかけ白川・東白川のバスの種類というものを載せております。

3年前の運行開始からありますが、上に写真が載っておりますけれども、濃飛バス、JR接続便、予約制バス、そして名称をフレックス便と改めた現在のサポート便となりますが、

ここまでがどなたでもご利用いただける公共交通ということで、特に、濃飛バス、JR 接続便、予約制バスというのはこの3つの種類を組み合わせることでこの地域全体の運行をカバーするというもので位置づけております。

ただ、その運行が無い時間がありますのでこのフレックス便というものが予約制バス等の運行の無い時間や休日の運行のない日の臨時便となります。限られた台数、運転さんで行っておりますので、予約に関しても予約制バスでは1時間前となっておりますが、フレックス便は前日までとなっております。

運賃についても、現状のおでかけ白川東白川の料金体系で回数券や定期券というのでも適用ができることとなっております。

最後のサポート便については、次の項目で説明をしたいと思います。

以上となります。

(座長 佐伯正貴 白川町副町長)

今説明がございましたが、基本的に9月末までの延長というところでございます。

特に便の名称で新たにフレックス便という名前に変更するという内容でございますが、ご意見はありますでしょうか。無いようですので、このような形で進めさせていただきます。

それでは次に白川町福祉有償運送の実施について事務局から説明をお願いいたします。

(高木大輔 白川町企画課企画係主査)

それでは白川町の福祉有償運送の実施の案について説明させていただきます。資料13ページをお願いいたします。

まず、実施の目的にありますようにこちらはどなたでもご利用いただけるという、お出かけ白川東白川の公共交通の部分ではなく身体等の状況によって公共交通が単独で利用することが困難な方を対象とした乗り物ということで実施をしたいというものであります。

二つ目の運送主体にありますようにこちらは白川町が行うものではなく社会福祉法人の社会福祉協議会とサンシャイン福祉振興会の二つの法人で取り組んでいただくことを計画しております。運賃をいただく有償の乗り物となりますが、その運賃だけで経費が全て賄えないため町から補助金を交付する予定です。運送の方法ですが、利用対象となる方は、登録をさせていただいた方が、事前に申し込みをして、原則個別輸送ということを考えています。四つ目の運営の体制ですが、2法人で取り組むこととなりますが、町内統一の運行方法というのを定め、各運送主体の2法人で登録と利用の受け付け、また車運転手さんの手配、運賃の受け取りも行っていただく予定です。検討中でありまして五つ目のスケジュールのところでは、現状の把握としてアンケート調査を行うよう準備をしております。

その後4月以降に運送の規定、対象者や区域、対価なども検討させていただいて、6月の協議会で改めて皆様にご協議をいただく必要があります。6月の協議が整ったうえで岐阜運輸支局さんに登録申請を行い8月から福祉有償運送の開始としております。

ただし、半年間は試験的な運行ということで取り組みをさせていただく中で、検証や見直しを行い来年の2月から本格的な運行ということで計画をしたいと思います。

資料の14ページに福祉有償運送のスケジュール案というものを載せておりますのでご確認をお願いします。

(座長 佐伯正貴 白川町副町長)

今説明を申し上げましたが、サポート便という位置づけで新しく福祉有償運送を進めていきたいということでございますが、加藤先生から何か補足がございましたら、よろしくお願いします。

(副会長 加藤博和名古屋大学大学院教授)

先ほど病院バスの部分でバスやタクシーが使いつらい方、あるいは乗り換えが非常に辛い方にとってはこう乗り物が使えるっていうものの一つとして位置付けられるかなと思います。ただ、福祉有償運送の場合は、通常は要支援以上とか障害者でない利用できないとなりますので、新しいサポート便は会員制ということで利用者登録をしていただいて利用するという事になると思います。

(座長 佐伯正貴 白川町副町長)

ありがとうございます。

こちらの福祉輸送についても詳細はまだ詰まっておりますので、また順次お示しをすることになると思います。

基本的にはこのようなスケジュールで運送開始に向けて進めていくということですが、特に他にご意見はよろしいでしょうか。

(岐阜運輸支局 久世真首席運輸企画専門官)

すいません。岐阜運輸支局です。補足説明ということになるのですが、これはタクシーに代わるサービスになります。個別の輸送がどうしても必要な方ということで先ほど事務局から説明があったようにドアツードアのサービスというふうになっております。

ですが、この地域の患者数は承知していませんが、人工透析患者とか場合によってはどうしても一括の輸送することが求められているところもありますので、そういう実態があれば、そこは必ずしも個別輸送でなくてもよい事になっていきますので、この地域でこういうふうニーズ実態がありますよということを、また次回の協議の場でですね、ご報告いただければ、支局としても状況を把握しつつ、有償運送の実施に向けて動きたいと思っておりますのでよろしくお願いします。以上です。

(座長 佐伯正貴 白川町副町長)

ありがとうございます。保健福祉の関係の部署でもある程度のニーズを把握していると思いますので、その辺のところもお示しをしながら改めて協議をお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

以上で協議事項まで終了しましたので、事務局にお返ししたいと思います。

(長尾弘巳 白川町役場企画課長)

ここまで報告事項及び協議事項が終わりました。

その他に入りたいと思います。

中部運輸支局の久世様からお手元に配付した資料がございますのでご説明いただきたいと思ひます。よろしくをお願いします。

(岐阜運輸支局 久世真首席運輸企画専門官)

運輸支局の久世です。今日お配りしているカラー刷りの資料 3 点について情報提供をさせていただきます。(資料により説明有り)

(長尾弘巳 白川町役場企画課長)

今の点で何かお聞きしたい事があれば、よろしいでしょうか。

続きまして東白川村の現状を今井総務課長からお願いします。

(今井東白川村役場 総務課長)

東白川村役場総務課の今井です。2点ほど現状の報告及び説明をさせていただきます。

一つ目は代替バスの廃止ということで、平成30年の10月1日から大明神から越原消防センターまでの間を高校生の通学用に朝と晩に代替バスを運行してたんすけども、今年に入ってから利用者がほぼゼロということで、今後高校生になられる5人の方にお話させていただいて現状無くてもいいよというご意見いただきましたので、議会の方にもご報告申し上げまして、廃止することにしましたので報告させていただきます。

もう一点は福祉バスの無償化ということで、福祉有償運送を実施してまいりましたが、サービスの充実ということで、昨年の10月1日から皆さん無料でご利用いただけるサービスへと変更させていただきましたのでご報告させていただきます。

対象となるのは外出支援、それから病院の通院支援、透析の通院、介護予防事業への送迎支援というような内容になります。以上でございます。

(長尾弘巳 白川町役場企画課長)

はい、ありがとうございました。

今の東白川村の動きとか、現状について報告がありましたが、何かございますでしょうか。

それでは全ての事項を終了とさせていただきます、最後に閉会の言葉をいただきます。

閉会を東白川村副村長桂川様からお願いします。

(桂川東白川村 副村長)

東白川村の桂川でございます。

本日も加藤先生には適切なアドバイス、そしてまた新しいご提案等いただきましてありがとうございました。公共交通に関する環境は次々に変化をしております。会の目的でありますニーズを満たした持続可能なシステムを作っていくために、引き続き皆様にはこの会に対して、この会の運営に対してご協力をお願いしまして本日の会議を閉じさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。